

第3章

---

資料編

Chapter 3

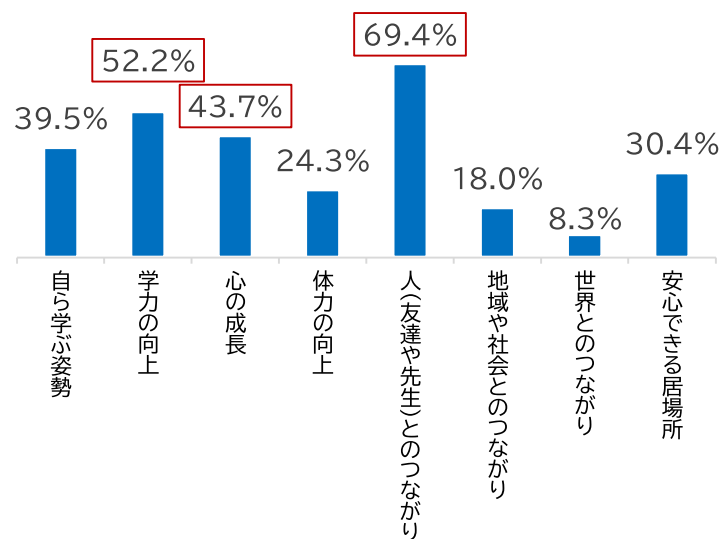
## 1 計画策定に向けたプロセス

## 児童生徒の意見

## ア 1人1台端末を活用したアンケート

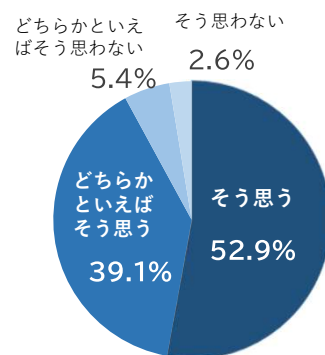
- 対 象 小学校（４～６年生）、中学校、義務教育学校、特別支援学校（小学部４年生～高等部３年生）、高等学校の児童生徒  
■実施期間 令和６年９月１９日（木）～１０月１０日（木）  
■回答者数 ５９,９５５人

- ① 「学校生活」についてあなたの考えを聞かせてください。  
あなたにとって、**学校生活で大事だと思うこと**は何ですか。  
次の中から3つ選んでください。
- ② ①で答えたことのほかに、あなたにとって、**学校生活で大事だと思うこと**があれば教えてください。（自由記述）

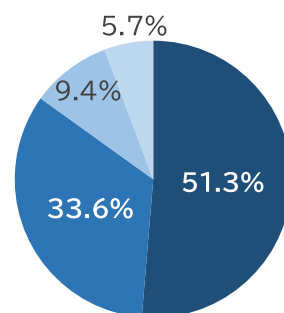


※ 自由記述の中で多く使用されている単語を可視化（出現回数が多いものほど大きく表示）。

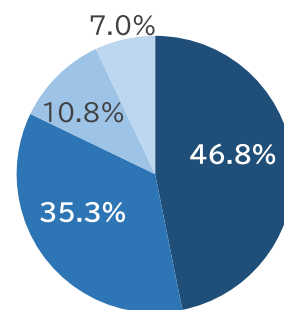
③ 学校での「学び方」について聞かせてください。  
あなたは、先生から教えてもらうだけでなく、友達と話したり自分で調べたり、オンラインで学校外の人と交流したりするなど、**今よりも学び方を自分で選べる**いいと思いますか。



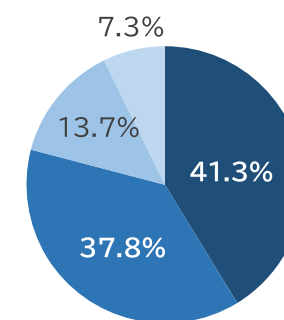
④ 授業で使う「ドリル」や「問題集」などの問題について聞かせてください。  
あなたは、みんなと同じ問題で学習するのではなく、**自分の力に合った難しすぎず簡単すぎない問題で学習できる**いいと思いますか。



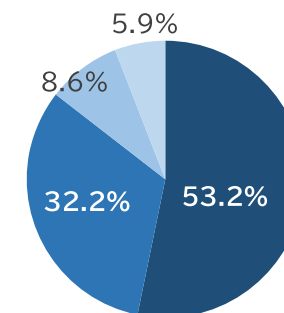
⑤ 「学習の状況」の確かめ方について聞かせてください。  
あなたは、**自分ができていることや苦手なことなどについて、「通知表」や「あゆみ」のほかにも、確かめることができる機会が増える**いいと思いますか。



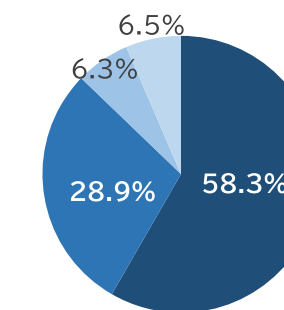
⑥ 「外国の人との交流」について聞かせてください。  
あなたは、学校で外国人の先生と直接話すだけでなく、**オンラインやバーチャル空間なども使って、外国の人と交流したり異なる文化にふれたりする機会が増える**いいと思いますか。



⑦ 「オンライン」の学習について聞かせてください。  
あなたは、学校や教室に行くことができないときでも、**オンラインで教室の学習に参加することを、自分で選べる**いいと思いますか。



⑧ 「相談したいことがあるとき」のことを聞かせてください。  
あなたは、相談したいことがあったら、**学校の先生や友達や家の人だけでなく、話を聞いてくれる人がいてくれる**いいと思いますか。



## イ 学校訪問による対話

■対 象 小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校、高等学校の児童生徒

■実施期間 令和7年6月～11月

### 学校生活で楽しいことを教えてください。

- みんなで学び合って、みんなで分かり合うことが楽しい。特に授業では、自分が分からないときに友達に教えてもらったり、答え合わせで分かったりしたときが楽しい。
- 友達と教え合ったり、アイデアを出し合ったり、行事に取り組んだり、協力しながらすることが楽しい。
- 音楽集会の発表のために、友達と一緒に練習することが楽しい。6年生だからみんなのお手本になりたくて、自分たちで行動するようにしている。
- 勉強や部活動でできなかったことができるようになったときが嬉しい。
- 部活動で練習することが楽しい。先輩・後輩や先生とも信頼関係があって、コミュニケーションをたくさん取れることが楽しい。
- 専門実習で物を製作したり、コミュニケーションを学んだりできることが楽しい。企業や地域の方と話すことが好き。
- 休み時間に友達と話したり遊んだりすることが楽しい。先生と学校でしかできない会話をすることも楽しい。
- 食堂で友達とご飯を食べるときが楽しい。小学生のときは、コロナで話しながら食べられなかったけど、今は友達と話しながら食べることができて嬉しい。
- みんなの前で発表することができるようになった。いろいろな人と話すことが楽しくなった。
- コミュニケーションは苦手だけど、友達に何かを教えたときに「ありがとう」と言われると、嬉しい。



※写真に写っている人物と記載されている発言の内容は、一致するものではありません。

## 学校生活で大事だと思うことを教えてください。

- 自分の得意なことや苦手なことが分かるようになること。実習で企業の方と関わり、自分に足りないところを見つけたり、それを改善したりする中で、社会に出たらどのようにしたいかを考えるようになった。
- 自主性が大事だと思う。勉強も人間関係も、自分から動かないと学べない。挑戦して失敗することで、失敗から学ぶこともできる。
- 学校は学び合うところ。自分が分からないことを教えてもらったり、友達に教えたりすることを生かして、「自分で分かる」ということを大事にしたい。
- コミュニケーションが大事。授業のグループワークで、意見をまとめたり、まとめている人に協力したりすることが大事。
- みんなで協力することが大事。一人ではできないことも、一つの目標に向かってみんなで協力することでできるから大事だと思う。
- 一緒に授業を受ける友達との関わり、先生との関わり、部活動での先輩・後輩との関わりが大事。社会に出たときに役立つと思う。部活の顧問の先生が、この学校のこの部活動に入って将来良かったと思えるような行動、自分の人生を豊かにできるような行動をしろ、といつもおっしゃっている。
- 先生や友達と信頼関係があること、頼り頼られる関係ができていることが大事。信頼があると話しやすくなる。頼り頼られることで、学ぶことにもつながっていくと思う。
- 自分の居場所を見つけたり、つくったりすることが大事だと思う。居場所があれば、安心して挑戦できる。



※写真に写っている人物と記載されている発言の内容は、一致するものではありません。

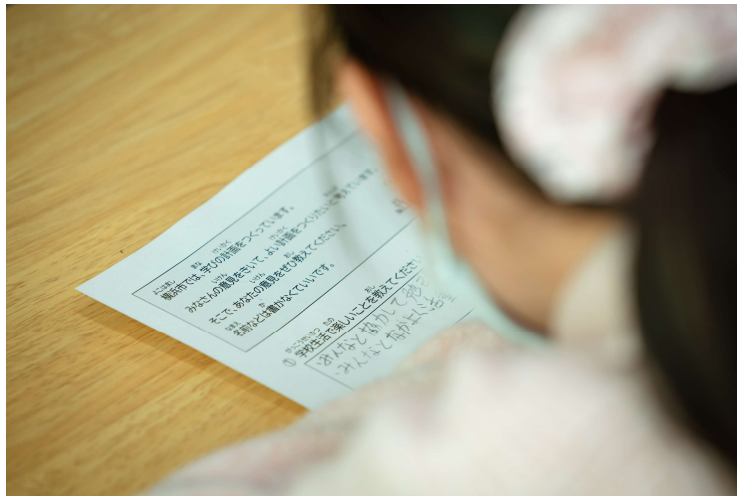
## 未来に向けて、これからどのようなことを学んでいきたいと思いますか。

- 好きなことをこれからも学び続けたい。自分たちで変えていけることを学んで行きたい。
- いろいろな世界や職業を知ることによって興味の幅を広げ、自分の夢を見つけていきたい。
- SNSやインターネットから正しい情報を見極める力をつけていきたい。新しい技術やAIをうまく使いこなせるようになりたい。
- 英語だけでなく他の国の言語も話せるようになって、外国の方と話したい。
- SDGsの取組をきっかけに、自分たちで変えていけること、できることをやっていきたい。
- 授業で学んだことを、今後も学んで生かしていきたい。知識を得るだけでなく、得た知識を生かしたい。
- 新しい環境でも人との関係を築けるように、学校で人との関わりを学んで経験を積んでいきたい。
- 授業や専門実習の中で、人とのコミュニケーションを学んでいきたい。社会に出た時の土台になると思う。
- 自分のことを学びたい。苦手なことはどうしたらいいか考えたいし、得意なことは将来につなげたい。



※写真に写っている人物と記載されている発言の内容は、一致するものではありません。

義務教育学校では、2年生、4年生、7年生の教室に訪問し、ワークシートを用いながら、学級全体で、学校生活で楽しいことや大事だと思うこと、未来に向けて学んでいきたいことを話し合いました。



よこはま市では、学びのめざす未来をつくらせていきます。  
みなさんの意見をきいて、よいめざす未来をつくりたいとがんばっています。  
そこで、みなさんの意見をきいてください。  
なまえなどは書かなくていいです。

① 学校生活で楽しいことを教えてください。

② 学校生活で大事だと思うことを教えてください。

③ これから、学んでみたいと思うことを教えてください。

ありがとうございます。

これから、<sup>まな</sup>学んでみたいことを<sup>おし</sup>教えてください。

自分にあつたか目うせんたくがもくや  
自分やりたいたいものとあつたことをやりたい  
うけたい事 → せんたく → かんがえたい

がっこうせいかつ たの<sup>おし</sup>  
学校生活で楽しいことを教えてください。

学校に来ると、友だちと会えていっしょに遊んだり、勉強  
をしたりするのが、学校生活で楽しいことです。

がっこうせいかつ だいじ おも<sup>おし</sup>  
学校生活で大事だと思うことを教えてください。

まちがうことです。理由は、大人になってもおおきい中でまちがうことはある  
ので、今のうちからまちがうことが大切だ、と思うからです。

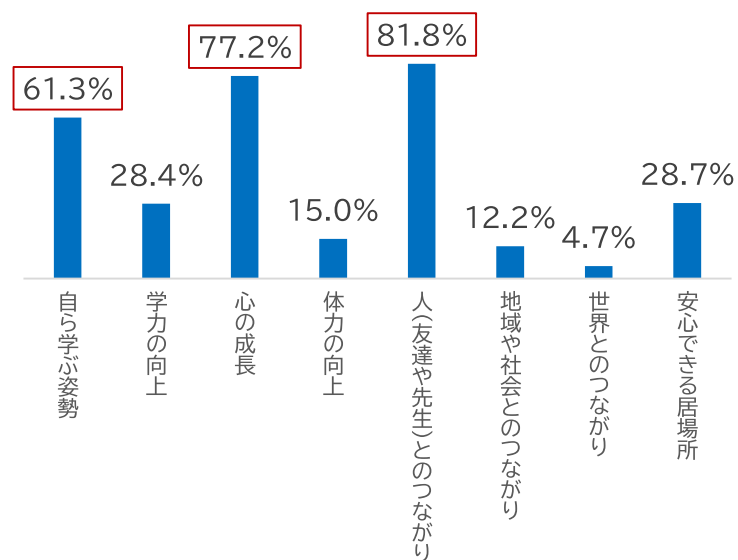


※写真に写っている人物と記載されている発言の内容は、一致するものではありません。

## 保護者アンケート

■対象	全児童生徒の保護者（小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校）
■回答期間	令和6年9月19日（木）から10月10日（木）まで
■回答方法	家庭と学校の連絡システム（すぐーる）で配信したアンケートフォームから回答
■回答者数	25,004人

- ① あなたのお子さんについて聞きます。  
**学校生活で大事にしてほしいこと**は何ですか。  
 次の中から3つ選んでください。

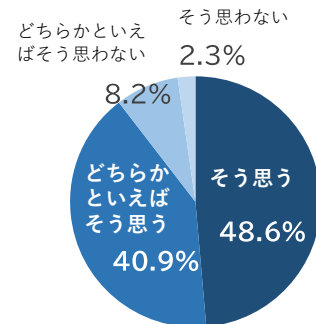


- ② ①で答えたことのほかに、**学校生活で大事にしてほしいと思うこと**があれば教えてください。（自由記述）

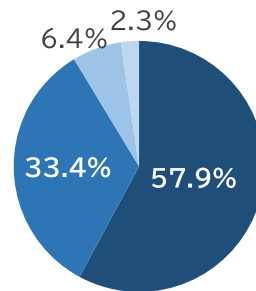


※ 自由記述の中で多く使用されている単語を可視化（出現回数が多いものほど大きく表示）。

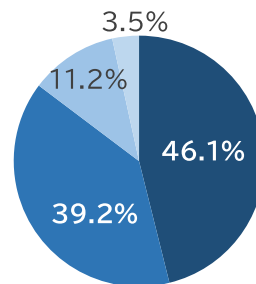
- ③ 「保護者と学校との連絡」について聞きます。  
あなたは、できるかぎり紙ではなく、**デジタル**（例：すぐーる）を活用して学校と連絡をしたいと思いますか。



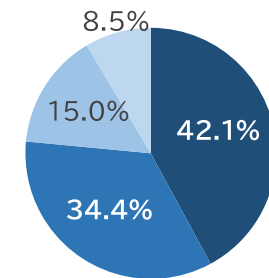
- ④ 授業で使う「ドリル」や「問題集」などの問題について聞きます。  
あなたは、お子さんが、**自分の力に合った難しすぎず簡単すぎない問題**で、よりきめ細やかに学習することができると思いますか。



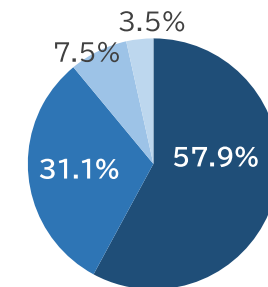
- ⑤ 「学習の状況」の確かめ方について聞きます。  
あなたは、お子さんの**日々の学校での学習や学力の状況を、保護者がよりきめ細やかに知ることができる**と思いますか。



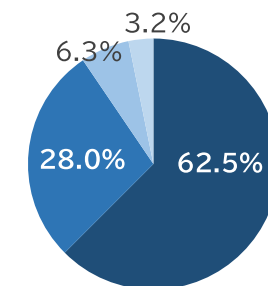
- ⑥ 「1人1台端末の家庭での活用」について聞きます。  
あなたは、お子さんが学校で使っている**1人1台端末を家でも活用し、宿題をしたり調べ学習をしたりするなど、お子さんの学びを深めることができる**と思いますか。



- ⑦ 「外国の人との交流」について聞きます。  
あなたは、お子さんが学校で外国人の先生と直接話すだけでなく、**オンラインやバーチャル空間なども使って、外国の人と交流したり異なる文化にふれたりする機会を増やしてほしい**と思いますか。



- ⑧ 「オンライン」の学習について聞きます。  
あなたは、お子さんが**学校や教室に行くことができないときでも、オンラインで教室の学習に参加することを、お子さんが選べる**と思いますか。



## 教職員アンケート

- 対象 学校管理職（校長・校長代理・准校長、副校長）
- 回答期間 令和6年10月22日（火）から11月5日（火）まで
- 回答方法 説明動画「第5期横浜市教育振興基本計画の方向性の検討について」を視聴し、アンケートに回答
- 回答数 612人
- 質問内容 ① 「第5期横浜市教育振興基本計画の方向性の検討について」を視聴した上で、あなたの意見や感想を教えてください。（自由記述）  
② 5期計画の方向性の案を踏まえて、学校で実現したいことなど、あなたのアイディアを教えてください。（自由記述）

### ■主な意見

- ・グローバル・デジタル社会の中で未来を切り拓く力を育むことに重点を置いていることに賛成。
- ・「横浜教育ビジョン2030」とのつながりを明確にしたり、「持続可能な社会の創り手育成」などの要素を包括的に示したりするとよい。
- ・新しい言葉がどんどん出てくことや、数値的目標値をどのように設定するのが気になる。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や、カリキュラム・マネジメントの確立など、学習指導要領を踏まえた効果的な学習指導の実践、充実等について記載があったほうがよい。
- ・地域との連携・協働の推進も、大きな柱として必要ではないか。
- ・家庭教育の向上にもしっかり着目して取り組み、「育てるなら横浜」も加えるべきだと考える。
- ・ビルド&ビルドでは、学校現場は疲弊してしまうので、メリハリのある施策を期待する。

- 対象 教職員
- 回答期間 令和7年9月10日（水）から10月10日（金）まで
- 回答方法 説明動画「第5期横浜市教育振興基本計画の基本的方向について」を視聴し、アンケートに回答
- 回答数 105人
- 質問内容 ① 「第5期横浜市教育振興基本計画の基本的方向について」を視聴した上で、あなたの意見や感想を教えてください。（自由記述）  
② 5期計画の基本的方向を踏まえて、学校で実現したいことなど、あなたのアイディアを教えてください。（自由記述）

### ■主な意見

#### 全体的な視点

- 子どもの意見を聴くことや、「子ども一人ひとりが「未来」を創るために必要なこと」に共感する。
- 「今と未来」両方大切にして、「今」も楽しく、「未来」に希望をもてるような教育を創っていききたい。
- 学校や教師も、子どもたちの意見と社会の動向にアンテナを高くして、常にアップデートできるたくましさとしなやかさが需要だと感じた。
- 学校や教師も、普段の教育活動の中で子どもの意見を聴く機会を増やしたい。
- 児童会活動や生徒会活動で今後の学校の在り方を児童同士で話し合う機会を設けたい
- 職員全員で、定期的に、「どのような子を育てていきたいか」を対話する場をつくるのが大切だと感じた。
- 自分たちの手で学校を創る楽しさを子どもも味わえるようにしたい。
- 基本的方向については賛同、共感するが、具体的な実現方策や学校・教職員への支援の強化も併せて検討してほしい。
- 子どもたちと大人で、未来の学校を創造していくことをワクワクできる市、学校であってほしい。自分もワクワクして創造していきたい。

## 柱1「全ての子どもの可能性を広げる学びの推進」

### 施策1 関係

- 学校組織を「子ども主体」で動かせるような仕組みづくりを目指したい。
- これまでの授業観を変えて、学び方を子どもが考えていく実践をしている。観を変えることに難しさを感じる教員もいたが、子どもから「勉強が楽しい」という意見が増えることで、教育のおもしろさを感じられているようだ。授業だけでなく、なんでも子どもと考えられたらと思う。
- 子どもが自ら学びを創るために、自ら学習の方法を選択したり、課題を設定して学習に取り組んだり、学校生活の中で自己選択、自己決定する機会を多く設けられるとよいと感じた。
- これまでの流れを受け継ぎながら、さらに横浜の子どもたちのためになるような活動をするための枠組みであると感じた。
- 児童生徒の主体性を育む絶好の機会と捉え、今後の教育活動を進めていきたい。そのためにも、「探究的な学び」の充実が必要だと感じた。
- 子どもたちがインターネットに使う時間が1日4～6時間ということからも分かるように、情報活用能力（メディアリテラシー、安全対策）の育成、AIに関する教育もより推進すべき。
- カリキュラム・マネジメントに、「子ども主体の学び」、「子どもの意見」を反映させる仕組みを構築したい。また、誰一人取り残さないという視点も大切。授業時数・カリキュラムの柔軟化も必要だと思う。
- 教育委員会事務局と教育研究会が連携し、教師力や授業力の向上を図っていくことが大切だと考える。
- これからの子どもには、社会情動的コンピテンシーの育成が必要。
- 教育の質向上のために、デジタル学習基盤の整備と教育DXの推進が不可欠。
- デジタル活用について不安をもつ子どもや教職員もいるため、だれもが安心して取り組めるよう支援してほしい。
- 児童一人ひとりが主体となって創る学びとは、委ねる学びかと思う。もっと教師のファシリテーション、マネジメント、コーディネートなどの力を付けられるように意識改革していきたい。
- 柱1については、学校・教職員にとって不易の内容であるという意識を一層高めていきたい。学校や教職員の信頼回復のためにも、この内容を学校現場で再確認するとともに、授業力・指導力の向上を目指し続ける学校を創造したい。

### 施策2 関係

- 人権尊重の精神を基盤とした教育の充実が必要。多様性を認め合える人を育てていくことが必要だと感じる。
- 道徳教育やリアルな体験、地域のできる活動の充実が重要。特に、本物にふれる機会の創出は子どもたちにとって、とても大切であり価値のあるものである。
- 児童生徒を取り巻く環境を踏まえると、メンタルヘルスリテラシーの充実が急務である。
- 非認知能力の向上の必要性について、エビデンスをもって発信してほしい。
- 児童生徒の言葉に、「自分のことを学びたい」とあったが、自分を知るための学び・他者と関わる力を育むことに力を入れていきたいと思った。

### 施策3 関係

- 食育の充実は大変重要。様々な家庭環境の児童生徒がいる中、心身の発達のためにもだれもが必要な栄養をとることが不可欠であり、中学校給食の提供には非常に期待している。
- 教員の柔軟な働き方とセットの施策として部活動指導を持続可能なものとしていくことが必要ではないかと感じる。

### 施策4 関係

- 特別支援教育や多様性への対応の強化は急務である。特に、多様な子どもたちを包摂する柔軟な教育課程の在り方を追究したい。
- 小学校と特別支援学校の交流によるインクルーシブ教育の推進が不可欠。
- 校内ハートフルや特別支援教室の充実など学校内の居場所づくり、オンラインを活用した学びの場の広がりなど不登校支援の充実・強化に期待。

### 施策5 関係

- サイエンス教育は重要。小中高校と連続した視点での教育が必要だと思う。

### 施策6 関係

- 12年間の連続性を意識した学びを創っていくことが必要だと感じた。
- 幼保小連携・接続の充実や小中一貫教育の充実が大事だと思う。
- 連続性の中で探究的な学びを充実させることが必要である。
- 新たな教育センターの設置を契機とした組織改革や取組に期待。

## 柱2「ともに未来を創るグローバル人材の育成」

### 施策1 関係

- 広い視野と物事を正しく判断する力を基礎に、自分の考えをしっかりともち、他者を受け入れる力や認め合う力などを育むグローバル教育が必要である。
- 外国をリアルに感じることで国際理解力が育まれると感じる。
- 外国の文化を知る機会も大切。
- 「世界の人とたちと出会う、ともに新しい価値を創り出そうとする力」については、海外の日本人学校とつながり現地の生徒たちと交流をもつことなど、できることだし、価値のあることだと思う。
- まず初めに、「世界の人たちと出会う、ともに新しい価値を創り出そうとする力」から目指していければと思う。1人1台端末を早くから取り入れた力と、国際都市横浜の特徴を活用できれば、子ども一人ひとりが「世界の人たちと出会う」ことは可能だと考える。

### 施策2 関係

- 自分づくり教育は再構築が必要な時期に来ているのではないかと。
- 地域も連携した実践的な学びを充実させたい。ESDの推進として、「はまっ子未来カンパニープロジェクト」のような起業家教育や実習・体験学習の充実はとても大切。
- GREEN EXPO2027を良いきっかけとしていきたい。
- 特別活動により社会参画力などを育むことが重要で、不登校やいじめなどを未然に食い止める要となるのも特別活動だと考える。
- 子どもの意見の中に「友達と教え合ったり、アイディアを出し合ったり、行事に取り組んだり、協力することが楽しい」というものがあり、これはまさしく特別活動を軸に育てることができると感じた。

### 柱3「安心して学べる学校づくり」

- 子どもが安心して学べる環境をつくっていききたい。
- 「子どもの意見を聴く」ことは大事だが、そのためには、子どもたちが安心して学べる環境が不可欠である。
- 安心できる環境を確保し、自分への理解を深め、自分に合う場所などを知ったり選びとったりするようになることが人生を自分の足で歩む素地になると考える。
- 子どもが安心して学べるように教師としても自己研鑽が必要と感じた。

### 柱4「社会全体で子どもを支える教育」

- 社会とつながって教育を創っていくという方向性は重要。学びの多様性を確保するためにも、学校にたくさんの人に関わってもらいたい。
- 学校運営協議会や地域学校協働本部をもっと存在感あるものにし、それらの仕組みを活用して地域の材をもっと学びに取り込みたい。
- 子どもが学校だけでなく、地域・社会にも居場所があったり、地域・社会で一緒に育んだりするような基盤づくりが必要だと感じる。
- 社会全体が当事者意識をもって教育に関わる意識をもてるとよい。
- 福祉・医療などとのスムーズな連携が重要。
- 学校説明会等で、保護者にも、横浜市の目指すものを伝えていきたい。

### 柱5「子どもたちの学びを支える魅力ある教職員」

#### 施策1 関係

- 子ども一人ひとりが「未来」を創るために必要な3つの力は、まず教職員が全員身に付けなければならないと感じた。
- 教師として、研究・研修に積極的に取り組む姿勢の大切さを感じた。
- 本気で学校を変える、学びを変えるには、教職員の専門性の向上が不可欠と感じている。
- 新しいことを進めるためには、人員確保、モチベーションの向上など総合的な支援が必要である。
- 教員養成・採用と働き方改革は一体。横浜市の魅力を発信することで良い人材を確保してほしい。

#### 施策2 関係

- 学校がやらなければならないことかどうかを意識して取組を整理してほしい。
- 校務DX、ICT支援体制の強化により、余白の時間を生み出し、教員がレベルアップできるようにすることが大切。
- 時間割を工夫することで職員の働き方に変化が見られた。
- 学年を横断的に捉えて、チームで子どもを見ていくという視点は働き方改革にも必要だと思う。
- 学校と保護者の円滑な関係の確保が必要である。
- 今ある学校教育の姿を少しずつ変革させ、教職員の負担軽減と生徒の主体性の高まりを同時進行で進めていきたい。
- 教室で日々の授業のレベルを上げることが、子どもたちのウェルビーイングにつながり、子どもの育ちを実感すれば、教師としてのウェルビーイングも感じられる。それを実現するには、教師が授業改善に向える時間的余白と教師が自ら学ぶことができる材と教師自身のモチベーションが必要。

### 柱6「子どもの学びを充実させる学校規模と学校施設」

- 安全安心でより良い教育環境を整えることが、子どもの良い学びにもつながる。
- 学校施設の老朽化対策や冷房設備などの機能充実は喫緊の課題である。

### 柱7「市民の豊かな学び」

- 文化創造拠点としての図書館整備など、市民生活に直結するような施策について方向性を示していくことが必要だと思う。

## 学校訪問による対話

■対 象 小学校、中学校、特別支援学校、高等学校の教職員

■実施期間 令和7年6月～11月



### 横浜市の教師としてのやりがい

「子どもたちにはいろんな可能性がある。その成長を近くで見ることができることが何より嬉しい。」

「子どもの素直な思いとして、楽しいという話を聴けて安心した。だからこそ、教師の質が大事だと改めて思った。」

「教師として、うまくいかないときがあり悩みが増えていく。自分も乗り越えていきたい。」

「その子がどうしたいか、どのように応援できるか、どう背中を押せるかを考えることが増えてきた。」

### 子どもの学び

「授業では、聞いているだけの時間よりも、子ども主体でやらなければいけない時間をつくるようにしている。」

「自分で、情報が正しいかどうかを判断し、正しいことを広める力をつけてほしい。」

「いろいろなことに柔軟に対応できるように、自分で切り拓いていくことを大事に育みたい。」

「すぐに答えを求めてしまう子どもたち。自分で考える。友達と話してみる。そういった授業を大事にしたい。」

「相談できることを大切に育みたい。困ったときに支援を求められるか、抱え込まないことが大切。」

「助けたいと思ってもらえる人、一緒にいて楽しいと思ってもらえるような人に育ってほしい。」

「失敗する経験が大切。学校で失敗して、折れない心を育みたい。」

「スマホを使う時間が長いからか、人の心を理解する感覚が低くなっているのではないかな。人の心が分かる人になってほしい。」



### 教師の可能性、学校の可能性

「一人ではできないことがある。だから、みんなでやる楽しさを知ってほしいし、学校でしかできないことがある。」

「蒔いた種がどうなるかは見えにくい。でも、花が開くのを信じて蒔き続けたい。」



※写真に写っている人物と記載されている発言の内容は、一致するものではありません。

## 学校運営協議会を通じた地域等の意見反映

学校運営協議会\*は、地域住民、保護者と学校が学校運営の基本方針を共有し、一定の権限と責任をもち、それぞれの立場で当事者として学校運営に参画する仕組みです。

各学校において、地域、保護者との一層の連携により、児童生徒の学びや不登校、いじめ等の課題に取り組んでいきます。

### ■ 各学校の事例

- 全教職員が学校運営協議会に参加し、「子どもたちに身に付けてほしい社会を生き抜く力（レジリエンス）」をテーマに、協議会委員（地域住民の代表等）と意見交換を行っている。
- 「いじめの未然防止」をテーマに、学校、家庭、地域とともにいじめについて考えながら協議を進めています。協議した内容を、校内のいじめ防止対策委員会に共有するなど、対応に活かしている。
- 児童生徒の交通安全と見守り体制の構築を目指し、「ふれあいフラワーロード構想」として、見守り協力家庭は、フラワーポッドを飾っている。今後は、自治会町内会等と連携しながら、更なる取組につなげていく予定である。



### ■ 学校・地域コーディネーターの意見

- 地域と学校のつながりが広がれば、「探究」を深めることができると思う。
- 学習サポートなどのボランティアの登録者を増やして、様々な活動に対応できるようにしたい。
- 学校と話し合える関係性を築いていきたい。
- 学校の要望に応えながら連携を密にして、子どもたちと教職員に喜んでもらえる活動を行ってきたい。
- 中学校ブロックでの交流を深めていきたい。
- 子どもたちのためだけでなく、先生たちの健康のためにも、負担を減らす手伝いになるような活動をしたい。
- 先生方の業務が多岐にわたることを、保護者や地域にも知ってもらうことが必要だと思う。
- 学校に提案することが、逆に負担になるのではないかと不安に思うことがある。
- 学校図書館を借りて、「放課後居場所カフェ」を開いている。生徒はもちろん、先生にも居場所にしてほしい。
- 保護者にも、子どもの「なぜ？」や「これしたい！」にたくさん付き合ってもらえるように働きかけたい。

「令和7年度 学校・地域コーディネーター（地域学校協働活動推進）研修・交流会（令和7年11月13日）」より

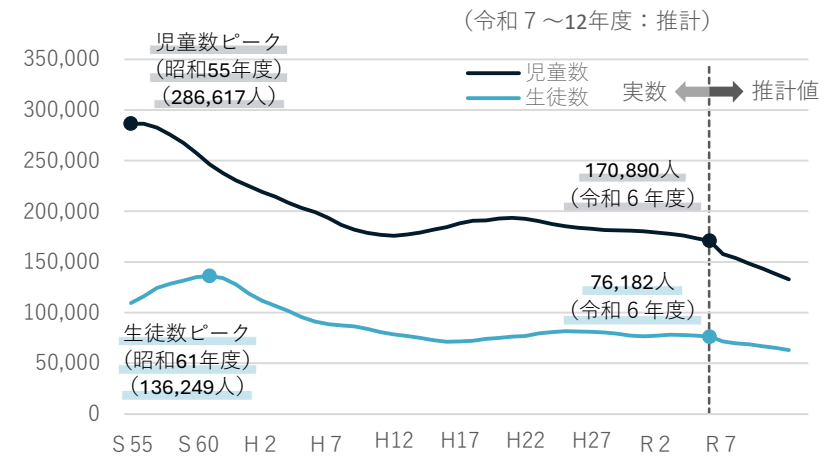
## 2 基礎データ

### ■ 市立学校概況

区分	総数	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	全日制		特別支援学級
						全日制	定時制	
学校数	505	336	144	3	9	8	2	13
児童生徒数	256,206	169,199	75,454	2,419	7,667	6,593	1,074	1,467
学級数	10,355	7,086	2,524	96	214	171	43	435
教員数	19,478	11,934	5,390	192	859	682	177	1,103
職員数	1,901	1,304	390	16	90	72	18	101

※学校数は分校を含む。高等学校9校については実学校数。  
※児童生徒数・学級数には、夜間学級の生徒数及び学級数を含む。  
※教員数・職員数は一部の非常勤講師等を含まない。  
(令和6年5月1日現在)

市立小・中学校及び義務教育学校の児童生徒数の推移



【令和6年度以前】各年5月1日現在の実数（個別支援学級、夜間学級、分校及び付属中学校の児童生徒数を含む）  
【令和7年度～12年度】義務教育人口推計値（個別支援学級、夜間学級、新井小学校及び新井中学校の桜坂分校、並びに付属中学校の児童生徒数を除く）  
※義務教育学校については、前期課程分を小学校、後期課程分を中学校に含む

### ■ 第1章の参考資料一覧

7 ページ	(左上) インターネットの利用時間の1日平均 (R6)	こども家庭庁「青少年のインターネット利用環境実態調査」(令和6年度)
	(右上) 子ども専用のスマホ保有率	こども家庭庁「青少年のインターネット利用環境実態調査」(平成22年度、平成26年度、令和元年度、令和6年度)
	(左下) SNSを利用している割合	総務省「通信利用動向調査報告書(世帯編)」(平成29年、令和元年、令和6年)
	(右下) SNSに起因する被害数	警察庁「令和6年における少年非行及び子供の性被害の状況」 警察庁「インターネット利用における子供の性被害等の防止について」
9 ページ	(左上) 日本の将来推計人口	総務省「国勢調査」(昭和25年～令和2年) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(全国)」(令和7年～令和52年)
	(右上) デジタル化の進展	総務省「情報通信白書令和5年度版」を参考に、Ericsson「Ericsson Mobility Visualizer」よりダウンロードしたデータ(令和7年8月8日時点)で横浜市が作成
	(下) 世界の不確実性指数の高まり・国際経済秩序の変動	経済産業省「第32回産業構造審議会総会(令和5年8月4日)参考資料2-③」を参考に、Scott Baker, Nicholas Bloom and Steven J. Davis, "Economic Policy Uncertainty Index"よりダウンロードしたデータ(令和7年8月8日時点)をもとに横浜市が作成

# 3 横浜教育ビジョン2030（詳細版）

## 1 横浜の教育が目指す人づくり

### 自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人

複雑で変化の激しい時代、解が一つではない課題にも柔軟に向き合い、持続可能な社会の実現に向けて、自分たちができることを考え、他者と協働し、解決していくことが重要となります。横浜の教育は、子どもが主体的に考え学び続け、多様な人々や社会と関わり合うことを大切にします。個性や能力を活かしながら、夢や目標に向かってチャレンジし、よりよい社会や新たな価値を創造できる人を育みます。

## 2 横浜の教育が育む力

「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」の育成を目指し、子どもに身に付けてほしい力を五つの視点「知」「徳」「体」「公」「開」で表し、相互に関連付けながらバランスよく育てていきます。

### 「知」 生きて はたらく知

#### ○基礎・基本を身に付け、自ら問題を発見し、よりよく解決する力

いつの時代でも、基礎・基本は学習や生活の基盤ですが、これからは、社会とのつながりを考えながら学んだことをどのように使っていくかがますます重要になります。そのため、多面的・多角的な見方や考え方で問題を発見し、身に付けた知識や技能を使って思考力・判断力・表現力等をはたかせながら、よりよく解決していく力を育みます。

#### ○主体的に考え、意欲的に学び続ける力

複雑で変化の激しい時代においては、新しいことに対する好奇心を持ちながら変化に柔軟に対応し、物事をよりよくしていこうとする意欲が、生きていく上での原動力となります。そのため、様々な課題に対して筋道を立てて主体的に考え、学ぶことの意義や楽しさを感じながら意欲的に学び続ける力を育みます。

#### ○知識や経験を活かし、知恵をはたかせて生きる力

知識や情報、技術をめぐる変化の速さが加速度的になる中、的確に社会の動向を捉えることが重要です。そのため、様々な情報を色々な角度から精査したり、知識を相互に関連付けたりして、物事を深く考え、真理や本質を見極める力を磨きます。その上で、学びを人生や社会とつなげ、豊かな発想を基に、知恵をはたかせて生きる力を育みます。

### 「徳」 豊かな心

#### ○自分を大切にし、しなやかに生きる力

「全国学力・学習状況調査（2017）」の結果、「自分には良いところがある」と答えた横浜市の小・中学生の割合は全国より低い状況です。自己肯定感、自信をもって物事に取り組み、困難を乗り越える力の源となります。そのため、自己理解を深め、自分をかけがえのない存在として大切にする心を育みます。また、積極的に周りに相談するなどして変化に柔軟に対応したり、助けを求めて困難を乗り越えたりすることができるような、しなやかに生きる力を育みます。

#### ○自分を律する態度と人を思いやる優しさ

日常生活の様々な問題や自分の生き方について関わる課題に直面したときには、主体的な判断の下に行動することが重要です。そのため、自立的な生き方や社会の形成者としてのあり方について考え、よりよく生きるための行為を自分の意志や判断によって選択し、実践しようとする態度を育みます。また、他者と共によりよく生きることができるよう、相手の立場や気持ちを思いやって行動できる優しさを育みます。

#### ○「本物」に触れることで育む豊かな感性

自然体験や生活体験が豊富な子どもほど、自己肯定感や道徳観・正義感が高いという調査結果「青少年の体験活動等に関する実態調査（2014）」があります。身近な自然から得られる発見や感動、人と人がじかに触れ合うあたたかな交流や文化芸術の情緒豊かな世界など、様々な「本物」に触れる体験を通して、豊かな感性を育みます。

### 「体」 健やかな体

#### ○自ら健康を保持増進しようとする態度

横浜市では、いつまでも元気に自分らしい毎日を過ごせるようにするため、自分のできるところから健康づくりを楽しむことを「健康横浜21」に掲げ、様々な取組を進めています。食生活の大切さを理解し、望ましい生活習慣や楽しく運動する習慣を身に付けることで、自分の心身の健康を保持増進しようとする態度を育みます。

#### ○体力づくりを通じ、心身ともにたくましく生きる力

「小中学校児童生徒体力・運動能力調査（2016）」によると、横浜市の小・中学生の体力は全国より低い状況にあり、運動をする子どもとそうでない子どもの二極化傾向も見られます。体力は、意欲や気力といった精神面の充実にも深く関わっており、人間の健やかな成長を支え、豊かで充実した生活を送ることにともなわれます。そのため、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自ら進んで運動やスポーツを継続的にを行い、心身ともにたくましく生きる力を育みます。

#### ○生涯にわたって運動やスポーツに親しむ態度

一人ひとりの興味関心に応じて運動やスポーツに親しむことは、生活をより豊かに送ることにつながります。また、運動やスポーツには粘り強くあきらめないで取り組み、目標を達成する喜びもあります。「ラグビーワールドカップ2019 TM」「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の経験を踏まえ、関係機関や企業等と連携した取組等を通して、運動やスポーツに対する関心を高め、生涯にわたって運動やスポーツを「する、みる、支える、知る」の多様な関わり方で親しむ態度を育みます。

## 「公」 公共心と社会参画

### ○自分の役割や働くことの意義を理解し、行動する力

「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（2013）」の結果、社会問題への関心や自分の社会参加において、日本の若者の意識は諸外国と比べて低い状況です。そのため、学んでいることを社会と関連付ける工夫などを通して、身近な出来事や社会問題への興味関心を高めます。その上で、家庭や地域における役割も含めた幅広い視点で働くことの意義を理解し、社会的・職業的自立に向けて、自分の役割と責任を自覚し、行動する力を育みます。

### ○横浜を愛し、地域や社会のために、他者と協働する力

大規模災害の発生を契機に、改めて地域や社会の絆の重要性が認識されています。横浜では、多くの市民が横浜に対して愛着や誇りを感じており、豊富な人材と、活発な市民活動が特徴です。日頃から、横浜の魅力を発見する機会や、地域社会とのつながりについて学ぶ機会を通して、地域や社会のために自分ができることを考え、他者と協働しながら課題解決を図ることができる力を育みます。

### ○夢や目標を持ち、よりよい社会を創造しようとする態度

「全国学力・学習状況調査（2017）」の結果、将来の夢や目標を持っている横浜市の小中学生の割合は全国と比べて低い状況です。様々な分野で活躍する人や身近な尊敬できる人との出会いなどを通して、自分らしい夢や目標を持ち、生き方を考えようとする態度や、よりよい社会をつくるために、自ら考え行動し続ける態度を育みます。

## 「開」 未来を開く志

### ○自分を見つめ、多様性を尊重し、共生する力

グローバル化や価値観の多様化が一層進む中、年齢や性別、国籍や文化の違い、障害の有無等に関わらず、全ての人がお互いの人権や尊厳を大切に、支え合い、いきいきとした人生を送ることができる共生社会の実現が求められています。そのため、自分の内面と向き合い、自他の違いを受け止めながら、価値感や背景の異なる相手ともコミュニケーションを図ることを大切にします。その中で、共感的に理解したり、合意を形成したりするなど、共に生きていく力を育みます。

### ○グローバルな視野を持ち、持続可能な社会の実現に向けて行動する力

経済、社会、環境をめぐる地球規模の課題が深刻化する中、「持続可能な開発目標（SDGs）※」の達成を目指し、世界中の国や企業、市民団体等が取組を進めています。そこで、横浜はもとより日本の歴史や伝統文化を深く理解し、また、世界で起きている出来事にも幅広く関心を持ち、持続可能な社会の実現に向けて身近なところから行動する力を育みます。

### ○進取の精神を持ち、新たな価値を創造しようとする態度

横浜には開港以来、国内外から人が集まり、常に新しい技術や文化を積極的に取り入れていく進取の精神が育まれてきました。急速に変化する社会では、その先に起こる変化を予測し、行動することで、新たな未来を切り開いていくことが求められます。そのため、横浜がこれまで培ってきた進取の精神や国際都市としての多様性を強みとし、既成概念や慣習を打破しイノベーションを起こすなど、新たな価値を創造しようとする態度を育みます。

※ 2015（平成27）年9月「国連持続可能な開発サミット」にて、全会一致で採択された開発目標。先進国を含む、国際社会全体の目標として、2030年を期限とする包括的な17の目標を設定している。

## 3 横浜の教育の方向性

### 多様性を尊重し、つながりを大切にした教育を推進します

「自ら学び社会とつながりともに未来を創る人」を目指して、多様な価値観や個性を尊重し、子どもや学校を取り巻く、様々な「ひと、もの、こと」のつながりを大切にします。その上で、次の四つの方向性に沿って施策や取組を進めます。そのために、学校や行政だけでなく、家庭、地域、関係機関、企業等、子どもの成長に関わる人が、方向性を共有し、一体となって教育を推進します。

### 1 子どもの可能性を広げます

#### ◆主体的な学びを引き出し、様々な教育的ニーズに応じて、個性や能力を伸ばします。

- 子ども自身が興味を持って積極的に学ぶとともに、学習活動を振り返って次につなげることができるよう授業改善を推進します。そのために、エビデンスに基づいた指導・支援を行うとともに、ICTをはじめとするテクノロジーの効果的な活用、調査研究の充実等を図ります。
- 特別支援教育や日本語指導、登校支援など、学習や発達を取り巻く教育的ニーズに応じて、連続性のある多様な学びの場が用意されていることや、多様な個性や能力を伸ばす視点を重視します。

#### ◆よりよい社会や新たな価値の創造に向け、学びを社会と関連付け、他者と協働する機会を創出します。

- 学んでいることを社会と関連付け、自分の思いや考えを基に身近な生活をよりよくしたり、自分の未来や持続可能な社会のあり方について考えを広げ深めたりする機会を創出します。
- 知識や経験を相互に関連付けながら課題解決を図る機会や、他者と協働し、試行錯誤しながら物事を成し遂げる機会を創出します。

#### ◆相手と心から向き合うこと(想)を大切に、多様な価値観を認め、支え合う風を醸成します。

- 人権教育の充実や「考え、議論する道徳」の展開、いじめのない風土づくりに向けた取組等を通して、子どもが相手と心から向き合うことを大切にします。
- 集団の中で目標に向かって力を合わせ、ぶつかり合い、わかり合い、励まし助け合うことを通して、個々の違いを認め合いながら、ともに学び育つ風土づくりを進めます。

#### ◆幼児期から社会的自立までの成長過程における学びや育ちの連続性を大切にします。

- 幼児教育から高等教育までを視野に入れ、目指す子どもの姿や育む力を共有し、前の段階での教育が次の段階で生かされるよう、教育課程等の効果的で円滑な接続を図ります。
- 小中一貫教育を一層推進するとともに、幼保小中高の連携を進めていきます。
- 社会的自立に向けて、発達の段階に応じたキャリア教育を進めていきます。

## 2 魅力ある学校をつくります

### ◆教職員が子どもの理解を深め、いじめなどの課題をチームで解決し、安心して学べる学校をつくります。

- 子どもの思いをしっかりと受け止め、安心して学ぶことができる学校をつくります。そのために、いじめや不登校など、複雑化・困難化する児童生徒指導上の課題について、個人で対応するのではなく、児童支援・生徒指導専任教諭を中心としたチームによる指導・支援を進めます。
- 校長のマネジメント力や危機管理力の向上により、迅速かつ適切な判断のもと、カウンセラーやスクールソーシャルワーカー、弁護士や医師等の専門家を積極的に活用し、子どもの抱える課題のよりよい解決を図ります。

### ◆地域や社会と目標を共有し、連携・協働することを通して、子どもと社会がつながる学校をつくります。

- 「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育むという考え方に基つき、学校運営協議会等を活用しながら、「社会に開かれた教育課程」を実現します。
- 子どもや地域の実態を踏まえて設定する学校教育目標を実現するため、校長のリーダーシップのもと、学校全体として、教科等や学年を超えて教育活動や組織運営の改善を図っていきます。
- 各学校の自主的・自律的な学校運営を尊重しながら、学校や子ども、地域の実態を踏まえた支援をしていきます。

### ◆子どもが豊かに学び育ち、教職員がいきいきと働くことができる学校をつくります。

- 働きやすい環境の整備等に向けた業務改善の取組とともに、ワーク・ライフ・バランスを着実に推進し、教職員が働きがいを感じながら心身ともに健康でいきいきと働くことで、教育の質を向上させ、子どもが豊かに学び育つことができる学校をつくります。
- 学校の業務改善支援、専門スタッフの配置や教職員の担うべき業務の精選等、教職員の働き方改革を進めることにより、教職員が子どもとしっかり向き合う時間が確保できる、魅力的で持続可能な環境を目指します。

### ◆教職員は自ら学び続け、資質・能力の向上を図り、使命感や情熱を持って職責を果たします。

- 全ての学校管理職・教職員が、学校の置かれた状況の変化に対応し、よりよい学校を作っていくために、人材育成指標等に基づき、自身のキャリアステージに応じて自ら学び続け、不断の努力を重ねながら、教育に対する使命感と情熱を持って職責を果たしていきます。
- 採用方法の改善により、より優れた人材を確保していくとともに、大学との連携・協働の推進等により、教員の養成と育成をより一体的に進めていきます。あわせて、校内OJT・メンターチームの活動支援や、研究、研修の充実を図ることにより、意欲と能力を最大限に発揮できる人材育成をより一層進めます。

## 3 豊かな教育環境を整えます

### ◆学校施設の計画的な建替えや保全等を進め、子どもの安全・安心を確保します。

- 「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」に基づき、築70年を超えない範囲で、計画的に学校施設の建替えを進めます。
- 学校施設の建替えや老朽化対策にあたっては、子どもの教育環境の向上を第一に考え、子どもが安全に、安心して、そして快適に過ごすことができる環境を整備します。

### ◆地域とともに子どもをよりよく育む教育環境を整えます。

- 学校は、子どもが多く時間を過ごす学習・生活の場であるとともに、地域の防災や生涯学習等にも活用され、地域におけるまちづくりの様々な役割を担っていく場になります。
- 学校施設の建替え時には、建替えでなければ解消できない施設の機能面の課題解決のほか、学校規模の適正化の検討や、教育効果の向上が見込むことのできる他施設との複合化等について留意し、地域とともに子どもをよりよく育むための教育環境を整えます。

### ◆生涯にわたって主体的に学び、心豊かな生活につながるよう、市民の学びの環境を整えます。

- 市民が自分の興味や関心に応じて主体的に学び続け、心豊かな生活につながるよう、読書活動の推進や図書館サービスの充実、横浜の歴史に関する学習の場の充実を図ります。
- 市民の貴重な財産を次世代に引き継ぐため、文化財の保護・保全を進めるとともに、大人や子どもの学習の場としての活用や観光資源としての魅力向上を図ります。
- 市民が身近な課題に気づき、解決に向けて主体的に行動していくことができるよう、「学び」と「活動」の循環を支援します。

## 4 社会全体で子どもを育みます

### ◆家庭は子どもの心身の調和のとれた発達、自立心の育成、生活習慣の確立を図り、行政は家庭教育を支援します。

- 子どもは、保護者など特定の大人との継続的な関わりの中で、愛され、大切にされることで、生きる上での基盤となる基本的信頼感を育んでいきます。これを踏まえ、家庭は子どもの心身の調和のとれた発達を図り、自立心の育成や生活習慣の確立に努めます。
- 家族形態の変容や地域のつながりの希薄化など、家庭での教育を行うことが困難な状況が指摘されています。行政は、各家庭の自主性を尊重しつつ、地域や学校、幼児教育施設等と連携し、保護者への学習の機会及び情報の提供を進め、保護者同士のつながりや地域との交流を促進することにより、保護者が安心して、家庭での教育を行うことができるよう支援します。

### ◆学校、家庭、地域をはじめ、国内外の様々な関係機関や企業等が連携・協働し、子どもを育みます。

- より多くの保護者や地域住民等が学校運営に積極的に参画することで、地域と学校が双方向で関わる協働活動を推進するとともに、市長部局や警察等関係機関との連携強化により、登下校時の安全確保等を図りながら、地域全体で子どもを育みます。
- 地域人材だけでなく、国内外の教育機関や企業、民間団体等と子どもの成長に向けた目標を共有しながら連携・協働し、教育内容の充実を図ります。
- 子どもが積極的に地域や社会に参画して課題解決に向けて本気で取り組むことを推進し、子どもの挑戦する姿を厳しくもあたたかく受け止めてくれるような地域コミュニティを形成していくことで、人づくりと地域づくりの好循環を生み出していきます。

### ◆教育と福祉、医療等の連携により、子どもを切れ目なく支援し、自立と社会参画に向けた学びや発達を保障します。

- 全ての子どもの豊かな学びや育ちのため、教育と福祉、医療等が連携し、貧困や児童虐待など、様々な課題を抱える子ども一人ひとりに寄り添って支えます。
- 学校だけでは解決が困難な課題においては、学校と幼児教育施設や区役所、児童相談所、地域療育センター、医療機関、地域の団体等が連携し、役割分担をしながら切れ目なく支援することにより、子どもの自立と社会参画に向けた学びや発達の保障につなげていきます。

# 4 教育基本法

教育基本法（平成18年法律第百20号）

## 目次

前文 理念（第一条—第四条）  
第二章 教育の実施に  
第一章 教育の目的及び関する基本（第五条—第十五条）  
第三章 教育行政（第十六条—第十七条）  
第四章 法令の制定（第十八条）  
附則

我々日本国民は、たゆまぬ努力によって築いてきた民主的で文化的な国家を更に発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献することを願うものである。

我々は、この理想を実現するため、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。  
ここに、我々は、日本国憲法の精神にのっとり、我が国の未来を切り拓く教育の基本を確立し、その振興を図るため、この法律を制定する。

## 第一章 教育の目的及び理念 （教育の目的）

第一条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

## （教育の目標）

第二条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

三 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

四 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。  
五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

## （生涯学習の理念）

第三条 国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

## （教育の機会均等）

第四条 すべて国民は、ひとしく、その能力に応じた教育を受ける機会を与えられなければならない。人種、信条、性別、社会的身分、経済的地位又は門地によって、教育上差別されない。

2 国及び地方公共団体は、障害のある者が、その障害の状態に応じ、十分な教育を受けられるよう、教育上必要な支援を講じなければならない。

3 国及び地方公共団体は、能力があるにもかかわらず、経済的理由によって修学が困難な者に対して、奨学の措置を講じなければならない。

## 第二章 教育の実施に関する基本 （義務教育）

第五条 国民は、その保護する子に、別に法律で定めるところにより、普通教育を受けさせる義務を負う。

2 義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。

3 国及び地方公共団体は、義務教育の機会を保障し、その水準を確保するため、適切な役割分担及び相互の協力の下、その実施に責任を負う。

4 国又は地方公共団体の設置する学校における義務教育については、授業料を徴収しない。

## （学校教育）

第六条 法律に定める学校は、公の性質を有するものであって、国、地方公共団体及び法律に定める法人のみが、これを設置することができる。

2 前項の学校においては、教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない。この場合において、教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な規律を重んずるとともに、自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して行われなければならない。

## （大学）

第七条 大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

2 大学については、自主性、自律性その他の大学における教育及び研究の特性が尊重されなければならない。

## （私立学校）

第八条 私立学校の有する公の性質及び学校教育において果たす重要な役割にかんがみ、国及び地方公共団体は、その自主性を尊重しつつ、助成その他の適当な方法によって私立学校教育の振興に努めなければならない。

## （教員）

第九条 法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。

2 前項の教員については、その使命と職責の重要性にかんがみ、その身分は尊重され、待遇の適正が期せられるとともに、養成と研修の充実が図られなければならない。

## （家庭教育）

第十条 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

## （幼児期の教育）

第十一条 幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることにかんがみ、国及び地方公共団体は、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備その他適当な方法によって、その振興に努めなければならない。

## （社会教育）

第十二条 個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない。

2 国及び地方公共団体は、図書館、博物館、公民館その他の社会教育施設の設置、学校の施設の利用、学習の機会及び情報の提供その他の適当な方法によって社会教育の振興に努めなければならない。

（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）

第十三条 学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。

## （政治教育）

第十四条 良識ある公民として必要な政治的教養は、教育上尊重されなければならない。

2 法律に定める学校は、特定の政党を支持し、又はこれに反対するための政治教育その他政治的活動をしてはならない。

## （宗教教育）

第十五条 宗教に関する寛容の態度、宗教に関する一般的な教養及び宗教の社会生活における地位は、教育上尊重されなければならない。

2 国及び地方公共団体が設置する学校は、特定の宗教のための宗教教育その他宗教的活動をしてはならない。

## 第三章 教育行政

### （教育行政）

第十六条 教育は、不当な支配に服することなく、この法律及び他の法律の定めるところにより行われるべきものであり、教育行政は、国と地方公共団体との適切な役割分担及び相互の協力の下、公正かつ適正に行われなければならない。

2 国は、全国的な教育の機会均等と教育水準の維持向上を図るため、教育に関する施策を総合的に策定し、実施しなければならない。

3 地方公共団体は、その地域における教育の振興を図るため、その実情に応じた教育に関する施策を策定し、実施しなければならない。

4 国及び地方公共団体は、教育が円滑かつ継続的に実施されるよう、必要な財政上の措置を講じなければならない。

## （教育振興基本計画）

第十七条 政府は、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策その他必要な事項について、基本的な計画を定め、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

2 地方公共団体は、前項の計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。

## 第四章 法令の制定

第十八条 この法律に規定する諸条項を実施するため、必要な法令が制定されなければならない。

## 附 則 抄

### （施行期日）

1 この法律は、公布の日から施行する。

## 第5期横浜市教育振興基本計画 素案

令和7年12月発行

横浜市教育委員会事務局教育政策推進課

〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 tel 045-671-3243 fax 045-663-3118

明日をひらく都市  
OPEN X PIONEER  
YOKOHAMA